

教材名：5年生「大造じいさんとがん」

①学習課題

つきたい力：表現の効果について考えることができる力。

そのために：すぐれた表現に着目して読みます。

言語活動：私が伝えたい物語のみりよくを「折々のことば」にして伝えよう。

②評価規準

知識・技能：文章を音読している。(1)ケ

思考・判断・表現：人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C・E)

主体的に学習に取り組む態度：文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめようとしている。

①教材と出会う（構造と内容の把握 精査・解釈）

【発問①】登場人物はだれか。

- ・大造じいさんは中心人物。題名にもなっているから大切な人物。
- ・大造じいさんの心情を中心に書かれている。
- ・残雪は登場人物にだと思ふ。・でも残雪の心情が書かれていない。
- ・題名に「大造じいさんとがん」になっているから「残雪」は登場人物になるはず。・どうして「大造じいさんと残雪」ではないのかな。大造じいさんは「大造」と名前がついているけど、なぜ「がん」になっているのか。

【発問②】つきたい力・言語活動をやりとげるために問いを立てよう（私の問いを立てる）

○「問い」のモデルを提示し、そこから選ぶことも含めてみんなで問いを考えた。

- ・なぜ題名は「大造じいさんと残雪」ではないのか
- ・なぜじゅうをおろしたのか
- ・「心をうたれた」とはどういう意味か
- ・いつまでも見守っていたとき、大造じいさんはどんな気持ちだったのか
- ・工夫された表現がある、ないでは、読み手が考える人物像は変わっていくのか
- ・工夫された表現をみつけることができることができるのか

②考えを深める（考えの形成 共有）

【発問①】大造じいさんの気持ちはどう変化していったのか
○はじめ残雪のこと、どう思っていたのか。

・いまいまして思っていた。腹が立つ、悔しい。なんとか！

○うなぎつりばり作戦

・「ううむ」なかなかやるな、予想をこえてきたぞ。

○タニシばらまき作戦

・「ううん。」うーん、そこまでやるとは・・・。

○がんおとり作戦

・強く心をうたれて、ただの鳥に対してのように思えなかった。

・ただの鳥に対してと思えないなら、どう思っていたのかな。

○大造じいさんの気持ちの変化を表すと。

・最初、残雪に対して「いまいまして」思っていたが、「がんの英ゆう」というまでに変わった。

言語活動「折々の言葉」(モデル文)

ぼくは以前、大変つらい思いをした。たくさんのきょうだいたちと仲良くくらしていたのに突然、大きな魚におそわれ、一匹残らず食べられてしまった。その大きな魚はまるでミサイルみたいにやってきて、ぼくの心を悲しみのどん底に落として去っていった。

本当に落ち込んだ。でも、顔を見上げるとたくさんの海の仲間がいたことに気づいた。そしてまたあの大きな魚がやってきたとき、ぼくは前の自分とちがった。

気づいたことがある。一人じゃできないこともこうやってみんなでがんばればできる、ということ。この気持ちを大切にぼくは新しい人生を生きていく。

③言語活動 ○成果と●課題

○「折々のことば」とは新聞社が掲載している「心に響いたことば」や「自分をみつめ、他者とのかわりを言語化する」短い作文であることを伝え（2～300文字）

○大造じいさんになりきって考えることは、叙述や情景描写から考えることなので何度も読み、描写から受け取ったイメージや人物像を考えることができている様子があった。

●モデル文をもっと多く用意し、多様な観点から書ける手立てを打つ必要があった。

子どもたちのふりかえりより

・大造じいさんの気持ちが変わっていくのがよくわかった。情景描写から人物の気持ちを読み取ることができたが、4年の時も「色彩語」を習っていて、色から人物の気持ちを考えたので、このお話の中に色彩語を入れるとどうなるか考えるとおもしろいと思った。



単元計画
はこちら